

Press Release

報道関係各位

低利回りの環境下、投資家はファクターベースモデルを採用 —ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ調査—

パフォーマンスのギャップを埋める戦略へのシフトが進む

【2016年5月20日、東京】 米ステート・ストリート・コーポレーション(NYSE: STT)の資産運用部門であるステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ(SSGA)は、新たに発表したレポートの中で、投資家が低利回りの環境下で投資目標を達成するため、戦略的な資産配分モデルを見直し、ファクターベース(各種リスクに対する資産クラスのエクスポートヤーに基づく)モデルを導入していることを明らかにしました。

この調査は、日本を含む世界 400 社の機関投資家を対象として行われました。調査では、低リターン環境下において、設定したパフォーマンス目標とのギャップを埋めるために、投資家は投資手法を変更する必要があることを認識し、また、リスク調整後のリターンが改善されるなどの点から、スマートベータ戦略といったファクターベースモデルの導入を進めていることが明らかになりました。しかし多くの投資家は、これらのモデルを自信を持って導入するには、さらなる理解が必要であるとも考えています。

低利回りの環境にもかかわらず、回答者は長期ポートフォリオのパフォーマンスとして 10.9%のリターンを求めていると述べています。資産クラスが平均して期待を上回るパフォーマンスを示しているとは回答したのは、わずか 13%に過ぎませんでした。長期の期待値を下回るパフォーマンスを経験している投資家のうち 84%が、引き続きアンダーパフォーマンスが最低 1 年は継続すると考えており、残りの 16%は 2 年～4 年継続する可能性が高いと回答しています。

この調査は、投資家が新たなアプローチが必要であると認識していることを明らかにし、回答者のうち 97%は、今後 5 年間のうちに業界の投資戦略に大きな変化が起こると予想しています。

日本におけるステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ株式会社の高山秀樹 専務取締役兼チーフ・インベストメント・オフィサー(CIO)は、次のように述べています。「機関投資家の投資モデルは進化の途上にあります。これは現在の低利回りの環境下では従来の投資モデルでは投資目標を達成できないのではないかと、機関投資家が疑い始めていることによります。これまでにも増してリスクに対する配慮が必要であり、伝統的な戦略的資産配分モデルでは対応が困難になってきています。投資家は選択した資産クラス全体を俯瞰してリターンの源泉となっている要因を検証する必要があります」

当調査では、さらに以下について明らかになりました。

- リターン低下に直面している投資家においては、伝統的なアプローチが依然主流であるが、低収益や手数料の高さの中ではアルファ(ベンチマークに対する、プラスのリスク調整後リターン)の確保は引き続き困難であり、投資家は新たな視点を見いだそうとしている。パフォーマンス低下に対処するため、回答者の 59%はアクティブ投資への配分を、38%はスマートベータ戦略の採用を拡大予定
- これらの投資家は、パフォーマンス低下に対処するため、38%はスマートベータ戦略、66%はオルタナティブ投資、63%は目的ベース投資(インフレヘッジ、負債への対応や特定ファクターへの投資など、特定の運用目標をどれだけ達成したかによってパフォーマンスが計測される投資方法)を拡大する意向
- 全回答者のうち、41%は伝統的な資産クラスによる分類が引き続き資産エクスポージャーを管理する最も重要な手段であると考え、ファクターベースや目的ベースを含む代替的な分類手法を選んだ回答者は、それぞれ30%と25%を占める
- 米州地域の回答者の39%、ヨーロッパ・中東・アフリカ地域の31%は、すでにパフォーマンス低下への対処のためスマートベータを採用し、その利用者のうち75%は長期目標達成が中程度から顕著に改善されたと述べるなど、投資手法の変化が見られる。アジア太平洋地域の回答者の17%は、すでにスマートベータを取り入れており、35%は導入を検討中

新たな視点を見いだそうとする意欲は明らかであるものの、新しいアプローチを導入するにあたり、投資家はなおいくつかの課題に直面しています。

- 機関投資家は長期的なパフォーマンスの目標達成に向け、より優れた手法を見つける必要性を認識しているものの、すぐに変更し踏み切るとは限らない。課題として、他の投資家の間での導入率の低さ(62%)、理事会での承認の難しさ(46%)、社内での専門知識の不足(46%)などが挙げられ、そのいずれもファクターベースのアプローチへの移行を妨げている

「機関投資家の多くは、彼らのニーズと合致しない様々な運用方針に苦しんでいます。投資家は、適切な知識と専門ノウハウを蓄え、理事会や参加者など主要なパートナーからの支援を取り付け、また、方針変更を決定する前に全体としての目標を見直す必要があるなど、投資手法の変更がすぐに起こらないことは確かです。業界全体への導入といった意味では、私たちはまだその初期段階にあります。ファクターベースのアプローチを導入した投資家は優れた成果を収め始めています」と高山は述べています。

この調査は、委託機関 FT Remark 社により、政府系ファンド、年金基金、基金・財団、保険会社、および資産運用管理会社を含む 400 社の機関投資家を対象に、2015 年 12 月に実施されました。

このレポートの全文は[こちら](#)をご覧ください。

ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ(SSGA)について

約 40 年にわたり、ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズ(以下「SSGA」)は、お客様とのお客様を頼る多くの方々に対して財務面でご支援させて頂くことに強い決意で臨んで参りました。SSGA は、世界でも最大級で最も高度な機関投資家や金融法人のパートナーとして、インデックス運用からアクティブ運用にまで至る、厳密かつリサーチ主導の投資プロセスを通して、パートナーの目標達成のお手伝いをいたします。運用資産残高が数兆ドル*に及ぶ当社は、そのスケールとグローバルな組織展開により、あらゆる市場、地域、資産クラスへのアクセスはもとより、考え抜かれた考察と革新的なソリューションをお客様にお届けいたします。

ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズはステート・ストリート・コーポレーションの資産運用部門です。

* 2016 年 3 月 31 日現在の運用資産残高は 2 兆ドルです。この運用資産残高には、ステート・ストリート・グローバル・アドバイザーズの関連会社であり、販売代理店であるステート・ストリート・グローバル・マーケット LLC の運用資産残高約 330 億ドル(2016 年 3 月 31 日現在)が含まれています。

【本件に関するお問い合わせ先】

ステート・ストリート	広報部	03-4530-7105	Japan_Corp_Comms@jp.statestreet.com
広報窓口(エデルマン・ジャパン)	岡本	03-4360-9000	StateStreetJapan@edelman.com

JPMKT-1792